

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      | 石 田 豊  |
| 学位の種類   | 医 学 博 士  |
| 学位授与番号  | 乙 第 688 号  |
| 学位授与の日付 | 昭和50年9月30日   |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第5条第2項該当)   |
| 学位論文題目  | 全身性エリテマトーデス (SLE) における血清クリオグロブリン<br>第1編 その特徴および他の膠原病との比較<br>第2編 その経時的变化とループス腎炎との関連について |
| 論文審査委員  | 教授 平 木 潔      教授 谷 奥 喜 平      教授 妹尾左知丸   |

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は各種膠原病の中で、全身性エリテマトーデス (SLE) に於いては血清クリオグロブリン (以下Cg.と略) が immune complex として存在し、組織障害性に働いて特に lupus 腎炎の発症に病因的役割を果す可能性を示したものである。

まず第1編は各種膠原病の中でもSLEのCg.が immune complex の性格を特に強く持っている事を示したものである。すなわちSLEのCg.中には免疫グロブリンの他に、C<sub>1</sub>q,  $\beta$ <sub>1</sub>c の補体成分が結合しており、DNA, RNAなどの抗原となりうる成分も少数例ながら認められた。またRF, ANFなどの抗体活性を示すものも認められ、強い抗補体作用を示すものが多かった。これらの事実はSLEに於てはCg.が immune complexとして組織障害性に働いている可能性が大なる事を示していると思われ、この点を明確にする為、第2編では immune complex lesion の場とされる lupus 腎炎とCg.との関連について、またSLEの病態変動と共にCg.がいかなる変化を示すか検討を行った。その結果、SLEのCg.は臨床的活動性、血清学的変化をよく反映して変化し、急性転化の際にも明確な変化を示した。また、IgG-IgM混合型 ついでIgG型 Cg.陽性例では腎糸球体に immune deposit を認め、Cg.の抗補体作用もこれらと相関して高値を示した。以上の事からRF活性、C<sub>1</sub>qの両者あるいはいずれか一方が陽性で、抗補体作用の強いCg.は lupus 腎炎発症に病因的役割を果す一要素と考えられる。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、各種膠原病の中で、全身性エリテマトーデス (SLE) においては血清クリオグロブリンが Immune-complex として存在し、組織障害性に働いて特に Lupus 腎炎の発症に病因的役割を果す可能性を示したもので、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。